学習プリント（読むこと）

手引き⑥

★短歌に強くなる！

★短歌は、千年以上も昔から歌われ、親しまれてきた日本の伝統的な詩の一種です。五七五七七の三十一の音数をもつので「みそひともじ」とも呼ばれています。
短歌を鑑賞（かんしょう）する時には、作者の思いを読み取ることが大切です。情景を思い浮かべ、感動の中心をとらえましょう。

一、短歌の形式

○五・七・五・七・七（三十一音）の定型詩。
・上から順に、初句（一句）、二句、三句、四句、結句（五句）という。

○短歌は一首、二首と数える。
・三句までを上（かみ）の句、四句以下を下（しも）の句という。
○三十一音が原則だが、一、二音多かったり少なかったりする場合がある。多い場合を字余り、少ない場合を字足らずという。
○歌の途中で流れが一度終わるところを句切れという。

二、短歌読解の手順

①声に出して、くり返し読もう
・音読して、五、七、五、七、七のリズムを感じ取ろう。

②表現の工夫をとらえよう
・表現技法、リズムの特徴を押さえ、その効果を考えよう。

③情景をとらえよう
・短歌によまれている人物、物、出来事、風景などの情景を押さえて想像しよう。

④作者の思いを読み取ろう
・情景からどんな様子が感じられるのかを考えよう。
・心情を表す言葉に注目しよう。

理解の道すじ

短歌ってどんなもの？

短歌の特徴ってどんなもの？

表現されているものはなんだろ

短歌を読んで感じたことは？

表現技法	特徴	効果	例
枕詞	特定の言葉を導き出すために、その前に置く五音の言葉。	調子を整え、短歌に膨らみを与える。	たらちねの母がつりたる青蚊帳（あおかや）をすがしと寝ねつたるみたれども
比喩（ゆ）法	ものごとを他のものごとに例える。	印象を鮮明にする。	やはらかに柳あをめる 北上の岸辺目に見ゆ 泣けとごとくに
反復法	同じ言葉、または、少し変化させた言い方を繰り返す。	リズムを生み、印象を深める。	みちのくの母のいのちを一目見ん 一目見んとぞただにいそげる
倒置法	語順を入れ替える。	意味を強め、印象を深める。	金色のちひさき鳥のかたちして 銀杏（いちょう）ちるなり夕日の丘に
体言止め	結句の最後を体言（名詞）で止める。	意味を強め、余韻を残す。	春の鳥な鳴きそ鳴きそあかあかと 外（と）の面（も）の草に日の入る夕べ